

HIV自然免疫回避機構に関わる疾患  
エピジェネティクスの解明

熊本大学エイズ学研究センター  
岡田プロジェクト研究室 博士研究員  
田浦 学



この度は、肥後医育振興会医学研究助成金を賜り、誠にありがとうございました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は現在、熊本大学エイズ学研究センター 岡田研究室にて博士研究員として AIDS ならびに基礎免疫学研究に従事しております。AIDS は、原因ウイルス HIV-1 のヒト CD4T 細胞への感染により発症し、著しい免疫不全による日和見感染症等により死に至る最も重篤な感染症の1つです。有効なカクテル療法として HAART 療法が確立された今日に至っても、生命予後の優位な延長は得られたものの根治には至っていません。その原因として、感染機構の1つである宿主細胞における HIV-1 潜伏感染が挙げられます。したがって、HIV-1 潜伏感染成立に至る分子基盤の解明は、AIDS 根治療法に繋がる可能性が示唆されています。

本研究では、潜伏感染の分子機構として注目される HIV-1 による免疫回避に着目し、自然免疫機構すなわち TLR に代表されるパターン認識受容体からの HIV-1 回避機構の解明を行ってきました。今後は、本助成金を励みに詳細な分子機構を解析し、新たな AIDS 治療薬開発に貢献したいと考えております。

最後に選考下さった審査員の先生方ならびにご推薦を賜りました岡田教授に感謝の意を表したいと思います。

研究のかけ橋に役立ちたいと思います。



熊本大学大学院医学教育部  
修士課程1年(韓国) 鄭 珉境

この度は、肥後医育振興会医学国際交流助成金をいただきまして、誠にありがとうございました。私費留学生として経済的に大変な部分がありますが、いただいた奨学金のおかげで、研究に集中することができております。

私は世界的に感染症が猛威を振るっており、特に発展途上国においては数万人単位で死亡者が出現している現実を知って、研究を通じて少しでも役に立てればと思い日本の大学院に留学しました。今年四月に熊本大学に入学してから、一〇ヶ月の間、微生物学分野で先生方や先輩たちから教わりながら楽しく研究をしています。

我々の研究室では、活性酸素のシグナル伝達を主なテーマとして研究を行っています。活性酸素は元来、美容や健康に悪玉物質として認識されて来ましたが、最近になり生体内の重要なシグナル物質として働いていることが明らかになって来ています。特に、私は活性酸素の二次シグナル分子である8-ニトロICGM Pによる抗菌活性に着目して病原菌の感染における活性酸素シグナルを研究しています。将来、韓国や日本のみならず世界に役に立てる研究者になるように頑張ります。



熊本大学大学院医学教育部  
研究生(中国) 尹 今星

私は機能病理分野の研究生の尹今星と申します。この度、肥後医育振興会医学国際交流助成金をいただきまして、誠に有難うございました。

中国にいた時から、日本の医学技術は世界で有名だと聞きました。私は世界の最先端な医学を習って、できるだけ多くの人を助けるために、平成二十二年四月に私費留学生として日本へ来ました。一年間日本語を勉強して、平成二十三年四月に熊本大学大学院医学教育部に研究生として入学いたしました。

近來、急速な生活の流れ、環境汚染が増えるとともに、肺癌の患者が急増しております。私は機能病理学分野の伊藤隆明教授の指導の下で、肺の発生に関する研究を行っていました。今の研究テーマは「マウスの胎仔肺における *nanin3* の発現について」です。

私は大学院進学のために、一生懸命勉強に励んでおります。学業を最優先にしている今、両親からの仕送りだけでは学費および生活費が足りなくて大変な状況です。今回助成金をいただきまして、本当に助かりました。

より一層勉学に励み社会貢献できる力を身につけることで、ご支援を頂いた方々へのお礼に代えることができると考えています。

多くの方々にご支援を頂いたこと心から感謝しています。



平成23年度 第十五回  
外国人留学生  
奨学金受賞者紹介



熊本大学大学院医学教育部  
博士課程1年(中国) 崔 笑怡

私は熊本大学大学院医学教育部公衆衛生学分野、博士二年生の崔笑怡です。この度肥後医育振興会医学国際交流助成金をいただきました。誠にありがとうございます。会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

今、加藤先生の指導下で、前立腺がん

発生に関する栄養・分子遺伝疫学解析について研究しています。本研究によって、n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸をプロスタグランジンへ変換するシクロオキシゲナーゼ酵素(COX-1とCOX-2) 遺伝子多型と前立腺がん発生リスクの関連性について疫学的に解析します。環境要因の曝露タイプ、用量、時期そして遺伝子多型をもとに対象集団を層化し、個人レベルでの食事評価に関連した前立腺がん感受性リスクを明らかにしたいと思っています。

今回の助成金をいただきまして、本当に助かりました。博士課程を修了した後にも、実際に医療衛生関連へ自らの力をヒトの健康のため、精一杯頑張りたいと思います。一方、中国及び日本両国の共同